

とびしま未来 協議会通信



2014.10.25

第 10 号

とびしま未来協議会
Conference of the Tobishima island future
since 2011.5

TEL: 0234-26-2381

飛島総合情報サイトができました
<http://tobishima.info/>

facebook とびしま未来協議会



2014 年のお盆、今年もたくさんの親戚が島に里帰りしました



緑のふるさと協力隊の五十嵐くん(右)



とっても美味しい本格ハンバーガー



この夏にオープンした「カフェビヨンド・飛島」



「24 時間テレビ 愛は地球を救う」では、島の小学生が企画した「飛島大運動会」が放送されました

防災計画づくり

移住・定住者

島の未来をみすえ島民の皆さんに密着した事業を

新会長就任のご挨拶

このたび、とびしま未来協議会の会長を務めることになりました長濱修と申します。遅くなりましたが、この紙面をお借りして、皆さまに一言就任のご挨拶をさせていただきます。

二〇一一年の春にとびしま未来協議会が発足して約三年半のあいだ、前佐藤勝一会長のもと、離島振興計画の策定と実践について話し合い、「しまかへ」のオープン、天保そば・飛び魚そばつゆお土産セツト『飛島や』の販売など多くの取り組みを支援して参りました。

また、緑のふるさと協力隊の導入や新たなＵＩターナーを迎え、島内に若い人の姿が見えるようになり心強いと思います。飛島の将来については、このような若者や新たな定住者の存在等により明るい展望も見えてきております。

今年度は、これら移住・定住者の受け入れ支援体制の整備や、防災計画づくりにおいて重要な年であり、島内外の方々との協議を重ねて、島民の皆さんに密着した事業を中心に実施して参りたいと考えております。

微力ではありますが、島民、関係者の皆様のご理解とご協力のもと取り組んで参りますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

とびしま未来協議会会長

長濱 修

再会を喜び、交流を深める。分科会のテーマは、

「観光と人口減少」「防災」「自然保全」



トビウオのすり身を手に取り
意見を交わす飛島参加者



見学した両津の（有）両蒲にて。冷凍トビウオを処理し、
すり身や焼干しに加工する作業を見学。



観光ミシュラン二つ星、トビシマカンゾウの保全活動が行われている佐渡最北端の大野亀。
「亀」はアイヌ語の「カムイ（神）」に由来する言葉とのこと。佐渡ジオパークのひとつの見所でもある。



さまざまな意見が飛び交った分科会



トキ保護の取り組みは佐渡の象徴

三島交流会は、佐渡島・粟島・飛島の日本海に隣り合う三つの島で交流を深め、今後の離島振興について共に考える機会を持ちたいという思いで始まりました。

今回の交流会は、「観光と人口減少」「防災」「自然保全」の三つのテーマで分科会を行い、それぞれに活発な意見が飛び交いました。

この他にも、両津港近くのトビウオのすり身や焼干しを製造する加工所（有限会社両蒲）を見学したり、トビシマカンゾウの群生地である大野亀にて保全の取り組みを聞いたり、佐渡ジオパークの説明やジオサイトの散策など、有意義な内容になりました。

懇親会では、これまでの交流会を通して顔見知りとなった島民同士の再会もあり、大いに盛り上がりました。懇親会のファイナーレには地元鷲崎鬼太鼓の披露もあり、心温まるおもてなしに参加者一同皆感動。かけがえのない思い出となりました。

次回、平成二十七年は粟島が開催地となります。ぜひまたたくさんの方に参加していただき、交流を深めていただきたいと思います。

（渡部陽子）

*

今年八月に発表された「日本海における大規模地震に関する調査検討会」（国土交通省）によると、飛島・粟島・佐渡島ともに、地震発生後一分以内に、津波の第一波（三〇センチ以上）が到達すると想定されました。三島の関心も高く、「防災」をテーマに分科会を開催しました。

飛島からは、とびしま未来協議会が現在取り



三島交流会では佐渡島北・中部の各所を回った



会場となった「SADO ニツ亀ビューホテル」にて記念撮影

組んでいる防災計画づくりの状況、島民の意識調査、および公益大での昨年度の奥尻島、網地島、田代島調査の結果を報告しました。

佐渡島からは、東日本大震災や伊豆大島で発生した大規模な土石流災害の教訓から、ハード・ソフト事業を効果的に組み合わせ、「早く知せること」「早く逃げること」「早く対応すること」を主眼とした防災・減災対策を一体的に講じて、防災の実効性を目指していることが報告されました。具体的には、緊急情報伝達システムの整備、自主防災組織の組織（三一八団体、世帯カバー率では八九％）、要援護者の台帳整備、千人を収容できる防災タワーを予算四億六千万円で両津に二基建設予定（新たな津波想定により建設は延期）であることなどです。

また、佐渡の鷺崎地区からは自治会の意欲的な取組みが紹介されました。鷺崎地区では六年前に自主防災組織を組織し、全戸に緊急情報伝達システムを整備して地震の際の避難方法に関する意識を共有しており、また、写真付きの避難経路図を作成して全戸配布し、避難路の手すりを市補助金で整備し、地区内十二箇所に海拔表示をつけたことなどが報告されました。

昨年十二月には防災研修会も開催するなど、集落役員の防災意識が高く、自治会で自主的に話し合うことが多いそうです。

粟島からは、防災計画づくりに取り組んでいること、現在の避難場所や備蓄倉庫が、新たな津波想定の高さより下にあることから対策を検討していること、複合災害に備えた防災訓練が課題なことなど報告され、互いに有益な情報を交換しました。

（呉尚浩）

報告と御礼

三年目の「しまかへ」



今年で三年目となる「カフェスペースしまかへ」の営業が終わりました。五月二日から九月二十一日までの約五ヶ月の営業期間に、五六〇〇人を越える方にお越しいただきました。島民の皆さまをはじめとして、たくさんの方々を支えていただき、無事に営業を終えることができました。誠にありがとうございました。

八月に何度か台風を経験しましたが、比較的天候に恵まれた年でした。ノマ（簾）の下は程よい日陰となり心地よく、夜間は星空のもと涼やかな夜風を感じながら夕食後のひと時を過ごす観光客の方で賑わいました。

今年度は、飛島の旬の食材を食べていただくことをコンセプトに、新たなメニューを数種類加えました。主食とおかず・スープが一枚のプレートに乗った「ランチプレート」では、トビウオのすり身で作ったハンバーグの主菜や、もずくスープなどを提供し、味覚で島の季節を感じてもらえるように工夫を凝らしました。

しまかへを新聞記事で知り、その記事を切り取って持ってきてくれたり、毎年足を運んで下さるお客さまがいたり、本当に嬉しく思っています。しまかへが島づくりの拠点のひとつとなりつつあることを実感しています。

今後とも、しまかへの営業にご理解ご協力のほどお願いいたします。

（渡部陽子）

平成 26 年度
第 2 回 とびしま未来協議会

会議録

平成 26 年 9 月 24 日 (水) 11:15~13:00
とびしま総合センター 2 階和室

1. 協議事項

○カフェ・ビヨンド飛島のとびしま未来協議会への新規加入について ↓ 規約に基づき会議に諮ったところ、反対意見はなく承認された。

(1) 防災計画づくりの取り組みについて

○島民の暮らしに密着した事業として、東北公益文科大学、とびしま総合センター、飛島コミュニティ振興会が緊密に連携を取りながら取り組む（呉事務局長より提案）。八月二十九日～三十一日に飛島で公益大の研究会が合宿、「飛島の防災を考える会」を各地区で開催し、次のような意見が出た。

勝浦地区…第一次避難所に踊り場を作り、スペースを確保したらどうか。／中村地区…新たにしっかりとした避難路を作って欲しい。／法木地区…しっかりとした避難が出来る施設を作って欲しい、など。

① 三地区共通の課題として避難路、避難所の改善・確保が重要であるという声が出された。今回は、

島民がどのように協力し動いていくのかが課題。季節や時間帯を色々と想定しながら、きめ細やかな防災計画を作っていくことに重点を置いていきたい。

② 酒田市に防災にテーマをしぼり提案をして行く。国土交通省による大規模地震による津波の想定が変更された事でマスコミも興味を示し、応援をしてくれているので、この時期にしっかりとやっていく。

③ 詳しい情報が島民に行き届いていないと思われる。一年かけて山形県が想定の見直しをしていくということなので、情報の共有を図りたい。

十一月一日(月)に平川一臣氏(北海道大学名誉教授、地質専門家、津波堆積物研究家。佐渡・飛島にも何度か来島)をお呼びして、島民の皆様の過去の経験や専門的な知識を合わせて講演会を開きたいと思っている。何時の開催が良いか？

↓ 漁業の時間等から一三時半の開始が望ましい。終了時間については後日検討する。会場はとびしま総合センターとする。

(2) 移住、定住促進対策について

・移住を希望し、島の住まいが決まるまで二年かかった。住む所が決まらないのが一番のネックだった。県なり市で空き家が借りられる状況なのかきちんと整理して欲しい。

・アドバイザーを統括する総括的な窓口（コーディネーター）が必要である。

・飛島に移住したいという東京の親子がいる。総合的に情報を得られる窓口は必要であり、やはり住まいを心配している。移住してくる方への支援金があれば今後に繋がると思う。アドバイザーの謝

金は協議会から出るのか？

↓ 今年度は立ち上げ支援ということで、県からの対応となる。来年度以降は酒田市とも相談の上、協議会から支出していく方向で考えている。

・現実困っている人、移住したいと思っている方に寄り添いコーディネイトしてくれる専任の方を考えて欲しい。

・本当に移住を増やそう、飛島を何とかしようと思っているのであれば、県や市にも本気を出して欲しい。

・東京からの親子を、是非、島として受け入れて欲しい。十月中旬、下見に来島を予定しているが、下見の経費もかかるので、協議会として経費的な支援は出来ないだろうか？

↓ 今年度は予算も難しいので、来年度から予算化していけるよう要望していきたい。今回の親子の下見については、ボランティア渡航を活用し定期船代を補填する。また、住まいについても候補が挙がっている。

・今までは、移住を希望する人への対応が不明確だった。島内の事は総合センター、島外での事は市政推進課、市まちづくり振興課が窓口となるなど、県も含め対応を相談しながら、アドバイザーには島内でのきめ細やかな対応とサポートをお願いしたい。空き家バンクについては、県と市が一緒に検討していきたい。

・協議会として、来年度以降、移住、定住に力を入れていくべきという総意が確認できれば、協議会でも推進チームとして、とびしま総合センターと緊密に連絡を取りながら、予算の振り分けなども含め見直していく必要がある。

↓ 協議会として、来年度以降、各所と連携を取



2014年9月14日に開催されたとびしま未来協議会

りながら、移住、定住に力を入れていく事が確認された。

- ・行政側で移住者に対して、空き家の改造、生活の基盤づくりなどを整備して欲しい。
- ・移住者に対しては、他地域でも色んな誘引策を付けて受け入れをしている。こちらからも二、三年は住んでいただく事なども条件に入れながら、双方の条件を整理していく事が必要。
- ・実際には協議会の予算もないが大丈夫なのか？

↓ 県、酒田市に協議会への負担金の増額、移住・

定住促進の予算確保をお願いしたい。

※移住、定住のアドバイザー三名について協議会で承認された。

(3) 三島交流会について

- ・宿泊先について、鸛崎地区の方と交流して欲しいという事で、民宿に変更となる可能性がある。佐渡は花のプロジェクトを中心に交流していたが、来年度以降は、鸛崎地区（津波で地区が全滅した経験あり）、粟島、飛島が交流を継続していく。翌日は行政間の情報交換を持つ予定である。
- ・三島交流会に限らず、学校間、子ども達同士の交流も出来たらと思う。

(4) 仙山交流味祭 in やまがた（十一月一日、二日／山形）について

- ・昨年同様に協議会からはサザエのつば焼き、合同会社とびしまから商品提供をお願いしながら今年も参加し、飛島のPRと特産物の紹介、販売をする。売上げの10%は主催者に支払となる。
- ・島民の参加者には負担も多いため、今年度からは宿泊費、交通費実費に加え、日当を支給する。予算は三名を予定しており、事務局一名、島内から二名の参加をお願いしたい。また、事業者についてはかなりの経費負担を強いられるため、協議会からは、全経費から二万円を負担、支給する。
- ・藤橋さんは特に何か考えていますか？

↓ 機会があれば出店したいとは思っているが、車の移動経費等現実的に考えると難しい。
・酒田市の観光パンフレット同様、観光協議会、カフェビヨンド飛島など、島をPRできるものがあれば配布するので事務局まで連絡いただきたい。

(5) アイランダー 2014（十一月二十二日～三日 日／池袋）について

- ・前日二日に「島づくりサミット」が開催される予定である。
- ・参加希望者などあれば、仙山交流味祭同様に広報をお願いしたい。

(6) その他

- ・しまかへは、九月二日で営業を終了し、二七日に閉店感謝祭を開催する。雨天時は勝浦会館で開催。午後三時半より送迎車が廻るので、是非、参加して欲しい。
- ・とびしま未来協議会の広報、参加率向上のためにもお祭の時に御神酒を二本出していただけないだろうか？（会長）

↓ 協議会は、会費を徴収していないし、三地区に御神酒を出す経費負担を考えたらしくなくていいと思う。参加は会員の気持ちの問題である。

↓ 協議会の動きを全体に知らせていく方法を考えていく。

2. その他

- ・本年度の飛島クリーンツーリズム事業実施に対する御礼と、島内の不法投棄の実態について問題提起された。平成二八年に山形県にて開催予定の「全国豊かな海づくり大会」迎え、関係者が真剣に考えていく時期に来ているのではないか。（PO金子）

（以上）

お知らせ

『飛島移住定住アドバイザー』が誕生

とびしま未来協議会では、この十月一日に、『飛島移住定住アドバイザー』を、佐藤勝一さん（飛島コミュニティ振興会・会長）、渋谷わかさん（合同会社和楽・サード・サード提供責任者）、渡部陽子



飛島移住定住アドバイザーとなった
渡部陽子さん、渋谷わかさん、佐藤勝一さん

さん（合同会社とびしま・しまかへ店長）の三名に新たに委嘱しました。

『飛島移住定住アドバイザー』からは、とびしま総合センターと連携しながら、移住・定住希望者に対して、特に、飛島の仕事や、生活方法、地域行事などに関する情報提供や相談、助言などを行っていただく予定です。

著しい人口減少と高齢化が進んでいる飛島の活性化を図るため、飛島への移住定住者を更に増やしていくことは、ますます重要になっていきます。とびしま未来協議会では、移住定住アドバイザーとともに、この課題に対して、今後とも、積極的に取り組んでいく予定です。

お知らせ

飛島は、今年もアイランダーに参加します

十一月二十二・二十三日に「全国の離島が集まる祭典・アイランダー2014」が東京池袋で開催されます。「アイランダー」とは「島で生活する人」の意味で、会場では、離島の魅力を発信したり、特産物を販売したり、伝統芸能や歌のステージ発表などを行います。一九九四年に始まり、

飛島は今回で六回目の参加となります。飛島のブースでは工夫を凝らした島の展示を行い、島のグルメ食堂のコーナーでは「カフェスペースしまかへ」が来店します。飛島の食材を使ったパスタ等を提供する予定です。お知り合いの方がお近くにおられましたら、ぜひお声がけください。

